

環境活動レポート

2010年度版



財団法人 自然環境研究センター

対象期間：2010年7月～2011年6月

発行日：2011年9月26日

1. 組織の概要

■ 事業所名及び代表者氏名

財団法人自然環境研究センター
理事長 大塚柳太郎

■ 所在地

- ・本部 東京都台東区下谷 3 丁目 10 番 10 号 SN 入谷ビル
- ・増穂分析室 山梨県南巨摩郡富士川町平林北神田 1030-10
- ・小笠原事務所 東京都小笠原村父島字奥村
- ・奄美大島事務所 鹿児島県奄美市名瀬浦上町 10 - 4
- ・佐渡事務所 新潟県佐渡市新穂潟上1101-1 トキ交流会館内

■ 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 事業本部長：茨城康弘 TEL：03-5824-0960 FAX：03-5824-0961
Eメール：yibaragi@jwrc.or.jp
担当者 普及事業部：植村文恵 TEL：03-5824-0960 FAX：03-5824-0973
Eメール：fuemura@jwrc.or.jp

■ 事業活動の内容

野生生物を中心とした自然環境の調査・研究

■ 事業の規模

売上高 1,516,362,024 円 (2010 (平成 22) 年度)

	本部	増穂分析室	小笠原事務所	奄美大島事務所	佐渡事務所
従業員*	111 名	1 名	2 名	1 名	2 名
延べ床面積	1819.71㎡	396㎡	—	100㎡	—

*平成 22 年度末 (平成 23 年 6 月 30 日)

2. 対象範囲

■ 登録組織名：財団法人自然環境研究センター

■ 対象事業所：本部 東京都台東区下谷 3 丁目 10 番 10 号 SN 入谷ビル

■ 対象となる活動：当財団の全活動

■ 対象外：①増穂分析室…倉庫部分が大部分を占める。1名勤務するが調査のため不在も多い。
②小笠原・奄美大島・佐渡事務所
……調査プロジェクトのための現場事務所。プロジェクトが終了すれば撤退。

3. 環境方針

環境方針

—基本理念—

自然環境研究センターは、人間社会と自然との共存を科学的・政策的に研究することを目的に設立され、生態系の保全、野生生物の保護管理、自然環境情報の収集・整理・発信、自然とのふれあい計画の策定など、かけがえのない自然環境をまもり次世代に引き継ぐための調査・研究を進めています。

近年、とくに 20 世紀以降、大量生産・大量消費・大量廃棄に代表される人間活動の拡大により、身近な環境も地球規模の環境も大きな影響を受け、自然生態系の劣化や野生生物の減少も深刻化しています。現在求められているのは、産業構造の変革やライフスタイルの改変をとおして調和のとれた人間—環境系を創り出していくことです。

私たちは、当センターが目指す使命のもと、自らの業務を積極的に推進するなかで環境配慮の重要性を深く認識し、すべての活動において環境負荷の軽減など環境保全と持続可能な社会の形成に貢献することを目指します。

—行動方針—

1. 事業活動に係る国内の環境関連法規や国際的な環境保全の取決めを遵守します。
2. 事業活動を通じて生物多様性保全のための技術開発や情報整備を推進します。
3. 事業活動の実施において「グリーン購入」を積極的に進めます。
4. 電気・水道水・用紙類などの使用量を抑え、省資源・省エネルギーの推進に努めます。
5. 廃棄物の発生抑制を進め、分別を徹底して再使用・再生利用の推進に努めます。
6. 以上の方針を達成するために定期的なレビューを行い、環境活動レポートを作成し公表します。

平成 22 年 9 月 1 日

財団法人 自然環境研究センター

理事長 大塚柳太郎

4. 環境目標とその実績

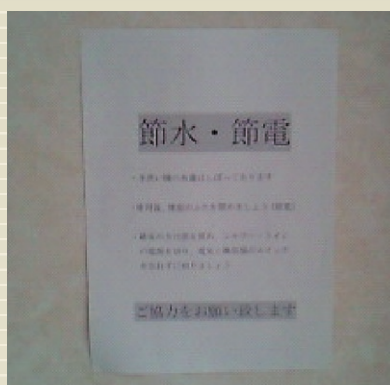
[中長期目標]

	基準年度 (2009年度)	2010年度	2011年度	2012年度
1. 二酸化炭素排出量削減				
・電気 (Kg-CO ₂)	126,511	△ 2% (123,981)	△ 4% (121,451)	△ 6% (118,920)
・ガソリン (Kg-CO ₂)	不明	調査後、基準値を定める	基準値の△ 1%	基準値の△ 2%
・CO ₂ 合計 (Kg-CO ₂)	不明	調査後、基準値を定める	調査後目標設定	調査後目標設定
2. 廃棄物排出量削減				
・一般廃棄物 (t)	不明	調査後、基準値を定める	基準値の△ 2%	基準値の△ 4%
3. 総排水量削減 (m³)	2,097	△ 1% (2,076)	△ 2% (2,055)	△ 3% (2,034)
4. 化学物質使用量削減 (kg)	4	保管の実態調査・適正管理の徹底	適正管理の徹底	適正管理の徹底
5. グリーン購入 (%)	72 (注1)	73	73	74
6. コピー用紙の使用量軽減 (kg)	4,155	△ 2% (4,072)	△ 4% (3,989)	△ 6% (3,906)
7. 環境方針配慮製品	—	提供できるサービスの模索	サービスの提供	サービスの提供

*基準年度は、2009年7月～2010年6月

注1) グリーン購入については、2010年3月～9月データより基準値を設定

* CO₂ 排出係数は、H20年東京電力(株)の実排出係数 0.418kg-CO₂/kwh を使用した。



トイレの壁に節水・節電の張り紙をして呼びかけ



8月の猛暑日も28°Cに設定厳守!

[実績：2010年度運用結果（2010年7月～2011年6月）]

	基準年 (2009年) 同月	目 標	実績	目標達成状況
1. 二酸化炭素排出量削減				
・電気 (Kg-CO ₂)	126,511	△ 2% 123,981	114,417	○
・ガソリン (Kg-CO ₂)	不明	調査後目標設定	10,874 (注1)	—
・CO ₂ 合計 (Kg-CO ₂)	不明	調査後目標設定	125,291	—
2. 廃棄物排出量削減				
・一般廃棄物 (t)	不明	調査後目標設定	1.881 (注2)	—
3. 総排水量削減 (m³)	2,097	△ 1% 2,076	2,104	×
4. 化学物質使用量削減 (kg)	4 (年間)	保管の実態調査・ 適正管理の徹底	適正管理の徹底	○
5. グリーン購入 (%)	72 (注3)	比率 1%増 73%	71%	×
6. コピー用紙の使用量軽減 (kg)	4,155	△ 2% 4,072	3,812	○
7. 環境方針配慮製品	—	提供できる サービスの模索	様々な案を出し ながら模索中	

目標達成状況の凡例 ○：目標達成 △：目標未達成但し基準年比減 ×：目標未達成

注1) 10ヶ月分のデータ。9月～10月は走行距離(メートル)から換算。11月～翌6月は給油記録に基づき算出

注2) 10ヶ月分のデータ

注3) グリーン購入については、2010年3月～9月データより基準値を設定



各階では自主的にゴミの
分別の張り紙を実施

5. 環境活動計画、取組み結果と評価、次年度の取組み内容

2010年9月に「エコアクション21」の取組みを開始し、2011年4月に認証を得て、6月末をもって当センターの2010(平成22)年度を終えました。全職員で環境活動に取り組んだ結果、事務用品のグリーン購入比率は目標に届かなかったものの、電力及びコピー用紙は、目標値を大きく上回る削減を達成できました。

これには2011年3月に発生した東日本大震災の影響による電力不足も大きく関係したと思われませんが、本年度の値を基準に、2011年度以降の取組みを積極的に進めていきます。

環境活動計画	取組み結果と評価	次年度の取組み内容
二酸化炭素排出量削減(電気) ① 昼休み、トイレ、会議室、 残業時間などの不要な照明の 消灯 ② OA機器の省電力設定・ 夜間の主電源切り ③ エレベーターの使用控え ④ 空調温度の適正化 ⑤ クールビズ・ウォームビズ運動 ⑥ 定期的な空調の清掃	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼休みの消灯をはじめ、不要な照明の消灯はほぼ100%できていた。 ・ PCはすべて省電力設定されており、プリンターの夜間の主電源切りも実行されていた。 ・ エレベーターの利用控えも意識されていた。 ・ 震災の影響もあり、より一層の節電対応があった。 ・ 2011年6月には、政府の節電方針も踏まえ、照明器具の間引きも実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季のより一層の節電を心がける。 ・ 最終的に目標値(0.98)を大幅に上回り、基準年に比し0.90のCO₂排出量となった。次年度もこの水準を維持するよう取り組みたい。
二酸化炭素排出量削減(ガソリン・軽油) ① アイドリングストップ ② 急加速・急停車をしない ③ 運転時の冷暖房控え	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイドリングストップをしていない運転者が多かったが、急加速、急発進をしている運転者は、ほぼいない。 ・ 冷暖房は特に意識せずに使用している運転者が多かった。 ・ 現地調査繁忙期を反映し、燃料消費量は秋季にピークとなった。換算後のCO₂排出量は、電力の1割程度となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコ運転の啓発パンフレット等を配布し、一層の運転者の意識啓発に努める。 ・ 運転記録を確実に残すとともに、引き続き、エコドライブに努める。
廃棄物排出量削減 ① ゴミの分別と所定場所への廃棄 ② ゴミ出し記録の実施 ③ 使い捨て容器の使用・購入を さげる	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミの分別が精度を上げて実施され、ゴミ出し記録をつけることで、排出量削減への意識付けができた。 ・ 各階で記録はきちんととられ、本年度の目標としていたデータ収集は達成された。 ・ 最終的に、EA21導入後の10ヶ月で累計1,881kgとなり、これを基礎に基準値を定めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2010年度の実績を基準値として、引き続き、分別の徹底と排出量削減に努める。

環境活動計画	取組み結果と評価	次年度の取組み内容
総排水量の削減 ① 節水の呼びかけ ② 最低限度の洗車 ③ トイレの手洗いの水栓をしぼる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 節水シールを貼った。 ・ 手洗いの水栓をしぼって節水した。 ・ これまで以上に、洗車頻度を落とすした。 ・ 年度の後半は順調に目標値をクリアした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、節水に努める。
化学物質使用量削減 ① 化学物質の実態調査 ② 適正管理の徹底（購入記録の徹底、保管場所の徹底、医薬外劇物表示など）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化学物質を使用する職員を把握して、現在管理している品名や量などを調査した。 ・ 管理の徹底のため、特定の戸棚に鍵をかけて保管し、化学物質のピンや保管戸棚に「医薬用外劇薬」のシールを貼った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、管理を徹底する。
物質投入（グリーン購入） ① 事務用品について現状調査 ② 調査に基づき目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 価格との折り合いをつけながら、できるだけグリーン購入の比率を上げるようにしたが、経費節減のため安価なものに偏る傾向があった。 ・ そのため平均ではグリーン購入比率は70%にとどまり、目標に及ばなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 購入品目別に精査を行って、購入比率の改善に努める。
省資源（用紙類の削減） ① 会議用資料や事務書類の簡素化 ② 印刷物の必要最小部数の見直し ③ 両面コピー・両面プリントの徹底 ④ ミスコピー防止	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議用資料の簡素化は心がけられている。印刷前に必要部数を具体的に検討する取り組みも進んだ。 ・ 3月は年度末の報告書とりまとめ時期にもかかわらず、目標を達成できた。 ・ 5月は使用量が多かったが、4、6月は低い値にとどまり、年間の総使用量は前年を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終的に目標値（0.98）を大幅に上回り、基準年に比し0.92の使用量となった。この水準を維持するよう、引き続き取り組みをすすめる。
製品（環境方針配慮製品） ① 事業活動を通じての生物多様性保全のための技術開発や情報整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業活動を通じての環境配慮製品の創出等を、研究本部長を中心に検討を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体化に向けて、継続して検討する。

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価並びに違反、訴訟等の有無

当センターの遵守しなければならない環境関連法規として、廃棄物処理法及びそれらに関連する台東区条例があり、また業務にかかわる法規として自然環境保全法や自然公園法などがあります。

当センターでは、これらの法規制を遵守するために、法規制の一覧表を作成し、定期的に遵守状況をチェックすることにより、違反のないことを自主的に確認しました。

なお、これらの法規制に対する関係当局からの違反の指摘、および関連する訴訟は、当財団設立以来ありません。

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

- 大震災の影響もあったと思われるが、職員の環境配慮への意欲は高いので継続させること。
- 当センターのエコアクションに関する活動状況を、職員が的確に把握できるようにすること。
- 事業を通じての環境に配慮したサービス提供について、多様なレベルで具体的に検討すること。
- LED照明器具やハイブリッド自動車の導入について、検討を継続すること。

以上を踏まえ、2011年度は環境目標のうち、電力とコピー用紙は2010年度実績に基づき目標を修正することとし、またグリーン購入については購入品目を精査することとしました。

エコアクション 21 に取り組んで

事務局 I.N さん

役員室はお客様がいらっしゃるの、真っ暗というわけにはいきませんが、失礼にならない範囲で電気を消すようにしています。エアコンもお客様が暑いと……と、夏に入る前は気もんでいましたが、数カ所に温度計を置いて、上がりすぎないよう、下がりすぎないように気をつけて何とか乗り切ることができました。温度計は役員の方が持って来てくださったもので、役員自らエコアクションを自主的に推進してくださいました。お昼に出るときには、各自で消灯して下さっていますし、ご自分のお部屋の蛍光灯は半分でいいよ、と申し出てくださった役員の方もいらっしゃるなど、私がうるさく申し上げなくてもよいので助かっています。私自身としては、ミスコピーをしないようにと気をつけています。検討事項としては、冷蔵庫が2台あるので、1台を撤去しようかと思案中です。

研究部 H.I さん

エコアクションのためもありましたが、何より震災後の節電のためにと職員同士で協力して、蛍光灯の数を半分にしました。電球や反射板を掃除したところ、驚くほど明るくなり、今では、この明るさで何の不便もありません。

今年の夏は猛暑でしたが、28℃設定でがんばりました。僕個人としては、USB扇風機をあまりにも暑いときには、使用していましたが、例年のように暑いからといって温度設定を気軽に下げるといったことはありませんでした。

コピー用紙は、無駄のないように割り付け印刷を多用し、文字が少々小さくても資料として活用しました。両面コピーはすでに職員は習慣になっていると思います。ただ、反古にしたコピー用紙をせっかく、両面と片面に分けているのに、一緒に資源回収に出してしまうのはもったいない。片面コピーを上手にリユースできるといいのですが。